

出版記念講演

「心理カウンセラーからみた SNS カウンセリングの可能性」のご報告

2018年6月3日（日）、LINE 株式会社（東京都新宿区）にて、一般財団法人 SNS カウンセリング協議会（※以下「協議会」）主催の出版記念講演「心理カウンセラーからみた SNS カウンセリングの可能性」を開催いたしました。

本講演は、『SNS カウンセリング入門 LINE によるいじめ・自殺予防相談の実際』（杉原保史・宮田智基 著／北大路書房）の出版にあたって開催された、二名の共著者による記念講演です。この本は、2017年に長野県が中高生向けに行った相談事業「ひとりで悩まないで@長野」のLINE相談体験をもとに執筆されたもので、SNS カウンセリングならではのメリットやデメリット、相談技術や相談体制などについて、データや事例をもちいて説明しています。

事前募集では50名の定員を予定していましたが、それを遥かに超える応募があり、当日は127名もの参加者にお集まりいただきました。

開会にあたっては、協議会の三川剛代表理事、浮世満理子常務理事、LINE 株式会社の村井宗明氏から、SNS カウンセリングという新たなカウンセリング手法に寄せられている各方面からの期待について、参加者の皆様にお伝えさせていただきました。



LINE 本社



浮世満理子常務理事



杉原保史理事

講演会の前半は、京都大学学生総合支援センター長カウンセリングルーム教授で協議会理事でもある杉原保史氏が語る「SNS 相談における心理カウンセラーの役割」について。実際に行った LINE 相談から得られたメリット・デメリットなどについて、学術的な視点を添えてお話いただきました。ヒットソングに見る通信ツールの変遷から、SNS カウンセリングがいかに現代にマッチしたものかを語るユニークな切り口は親しみやすく、会場からは何度も笑い声が上がります。杉原氏は最後

に「若者が相談しやすい SNS の相談環境をつくること自体が、相談者のコミュニティ（環境）の改革につながる。そのことで、メンタルヘルス全体が改善されるのではないか」と指摘。その言葉に、何度も深く頷く参加者の姿が見受けられました。

講演後半は、協議会の江口清貴代表理事の挨拶からスタート。「最近、SNS 上では資格をもたないカウンセラーの方々の行動が問題になりはじめています。SNS カウンセリングは、しっかりと勉強をし、訓練をされた方々で行いたい」と、参加されているプロのカウンセラーに向けての熱いメッセージが送られました。

続いて、関西カウンセリングセンター専任講師であり、臨床心理士でもある宮田智基氏によって語られたテーマは「SNS カウンセリングの実態」についてです。「受動的傾聴だけではうまくいかない。非言語的対応ができない SNS カウンセリングでは、共感的で指示的なメッセージをはっきりと言葉でつたえる必要がある」「相談者のテンポと文章量に波長を合わせる必要がある」など、実際に SNS カウンセリングに携わった宮田氏の知見には説得力があり、参加者の多くがメモを取りながら聞き入っていました。



江口清貴代表理事



宮田智基氏



講演会場

会の最後に行われたのは、協議会の古今堂靖専務理事の司会によるフロア・ディスカッション。参加者からは、杉原氏と宮田氏に対して、「SNS カウンセラーになったとして、収入に繋がる方法はあるか?」「相談者とカウンセラーの絵文字やスタンプの使用頻度にギャップがあるのでは?」など多くの質問が飛び、SNS カウンセリングに寄せられる関心の高さがうかがえました。

これからも、協議会は、SNS カウンセリング事業にまつわる様々な情報を、本サイトにてご報告いたします。